

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 29 年度

事業所番号	2796400105		
法人名	株式会社 愛のケア工房はるか		
事業所名	グループホームみんなのわが家はるか		
所在地	大阪府堺市南区晴美台3丁9番5号		
自己評価作成日	平成 30年 1月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 4月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2796400105-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節を感じる事ができる自然に囲まれた木の香りに包まれた温もりのあるみんなのわが家はるか。食事の準備や盛り付けなど簡単な調理を個々に応じた力を発揮できる場や、朝の体操や毎日の散歩に出掛ける時間を設けています。また演奏会やボール体操などのボランティアを積極的に取り入れ、毎日の活動を通し張りのある生活が送れるよう援助させて頂いています。行事レクカレンダーを毎月作成し、日々、飽きる事のない外出行事やレクリエーションやクラブ活動などにも力を入れています。個別での外出の機会も確保し、マンツーマンでの買い物、行楽見学や喫茶店などゆったりとした時間を設けたり、アクティビティアウトティングと称した1日その方の為に過ごせる活動の機会を作っています。健康面では毎朝と入浴前には必ずバイタルチェックを行い、医療連携のはるか訪問看護職員との連携も密に取り合っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設後4年が経過したホームは、法人の強力な支援のもと、行動力のある管理者と有能なベテランの職員が一体となって地域のボランティアの熱心な協力を引き出し、家族参加型の多彩な行事を積極的に企画実施し、家族の高い評価が得られています。月毎の「行事レクカレンダー」は利用者本位のイベントが満載となっています。また利用者の個別外出にも力点を置き、とりわけ利用者の深い思いと願いを実現するための「アクティビティアウトティング」は利用者や家族に大きな喜びをあたえています。職員の定着率が低く、明るく優しく、チームワークの良いベテラン職員の熱意と頑張りにより達成した成果です。利用者は優しい職員に囲まれ、美味しい食事をいただき、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした表情で過ごしています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>経営理念、全社課題、介護理念、年度課題を毎日の朝礼で唱和するとともに、月1回のフロア会議にて理念や年度課題達成に向けた月間目標を考え実践している。毎月のGH会議では次回に活かせるように目標の振り返りを行っている。年課題はサブリーダーを中心に考えているが、全職員で候補から決定している。</p>	<p>職員が話し合い「家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」をホームの理念と定め、明示しています。職員は理念に沿って具体的な目標を掲げ実践しています。管理者は定例のGH会議や毎日の業務等を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域住民と共に支えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板や公園の掃除に参加したり、地域の祭りや敬老会などのイベント、いきいきサロンや防災訓練にも参加している。はるみだい保育園の園児交流、はるみ小学校の下校時間の見守りにも週1回参加している。	ホームは地域の一人として積極的に活動しています。自治会に参加し、回覧板で地域の諸情報を得て、祭り、敬老会、いきいきサロンなど多くの行事に参加しています。年2回の公園の清掃、防災訓練にも参加しています。はるみだい保育園の園児との交流もあり、月2回、しりとり、ボーリングなどレクリエーションを楽しんでいます。はるみ小学校の低学年児童の下校時には、利用者も週1回30分ほど見守り隊として職員とともに活動しています。バス停に掲示したボランティア募集のチラシを見て近隣から応募者があり、ボランティアとして、室内での活動、散歩の付き添いなどの戸外での活動等もしてもらい、さらにその輪は広がっています。地域の小学校に出かけ、他のグループホームの職員と協力して寸劇などを行い、認知症の啓発活動にも努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>他のグループホームのメンバーと共に近所の小学校へ訪問し、寸劇などを通して認知症について学ぶ機会を持ってもらうよう啓発活動をおこなっている。事業所にAEDを設置し、非常時に活用して頂けるように近隣住宅に周知し自治会でも告知している。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族、地域包括支援センター職員、地域の自治会長、自治会員、民生委員、他グループホーム管理者、地域住民、代表者、代表取締役、管理者、計画作成担当者で会議を構成し、2カ月毎に行っている。会議でいただいた意見は回覧で共有し、必要な改善策などは都度、話し合っている。</p>	<p>運営推進会議は規程を作成し、2か月に1回、年6回開催しています。会議は利用者・家族、地域包括支援センター職員、地域自治会長、民生委員、地域住民、知見者(大学教員)、他グループホーム管理者、代表取締役、管理者、計画作成担当者等で構成されています。事業所の現況報告、活動報告、行事予定、事故・ヒヤリハット報告、職員の動向、職員研修実施・予定等の報告が行われ、意見交換もなされています。会議で出された意見は、回覧で共有し、運営に活かしています。例えば意見から、洗濯場の改善につながった事例もあります。議事録が作成され、閲覧可能ですが、今後は全家族に送付することを計画しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>確認事項や報告あれば必要に応じてその都度電話にて連絡相談をおこなう日頃から協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、市や区の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者は行政の「認知症サポーター養成講座」に参加協力し、定期的に開催している市や区のグループホーム事業者連絡会にも参加し、情報交換をしています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>年1回、身体拘束に関わる内部研修の実施やマニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。また重要事項説明書にも記述がある。玄関は施錠せず開放的にしている。ドアアラーム、内扉を施錠しているが両側から自由に開閉できるため出入りは可能である。</p>	<p>職員は、ホームの年間の研修計画に従い、身体拘束廃止や虐待防止について学び、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。日中は玄関を内鍵方式にして、自由に出入りができるようにし、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年に1回の内部研修を通じて虐待防止に務めている。また虐待防止マニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。管理者は、ホーム内で虐待の見逃しが無いかを日々確認している。認知症の対応について研修や会議を通じてグレーゾーンや不適切なケアにも考える機会を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項説明書に成年後見制度の記述があり入所時に説明している。また不安な家族様へは声掛けしたり、いつでも相談できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人もしくは家族ともに説明を行っている。各2部作成し、双方が保有している。グループホームでの暮らしやサービスについて説明し納得した上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の来所時やカンファレンス、運営推進会議等で、家族からの用件や要望、意見を聞き入れるようにしている。重要事項説明書に相談先を明記し説明している。また玄関にも意見箱を設置している。</p>	<p>ホームの雰囲気は開放的で、利用者・家族の意見は言いやすい雰囲気です。家族の来訪時や電話連絡等では、職員は常に利用者・家族の意見に耳を傾けるようにしています。年2回の家族会のほかに、家族参加型のイベントも数多く開催し、相互に意見交換しやすい状況です。カンファレンス、運営推進会議等に利用者・家族が出席し、そこでの意見交換を運営にも活かしています。事業所は、写真、行事予定、担当職員による利用者一人ひとりの近況報告を記載した広報誌「みんなのわが家通信」を毎月発行し、家族に届けています。また、意見が出しやすいよう玄関には意見箱を設置し、ホーム以外の苦情相談窓口等も重要事項説明書に記載しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の GH 会議では事前にレジメを作成しているため、意見を集約しやすいようにしている。またできる限り全スタッフが参加できるようにしている。その都度の対応方法についても状況に応じて検討している。また、管理者とは業務の間にも話ができるようにしたり、半年ごとに個別に面談する機会を設けて意見を聴くようにしている。定期的にサブリーダー会議と正職会議も実施している。</p>	<p>職員は、定例のGH会議や日常の業務の中で業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。職員の離職率が高い中でベテランの職員の頑張りとチームワークでカバーしていることに家族は感謝し、高い評価を与えています。また、前回の外部評価受審以降、職員の新規採用時オリエンテーションを充実して実施しています。管理者は年2回職員と面談し、風通しの良い職場作りにも努めています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の職員の特性を活かせる仕事をまかせたり、チャレンジシートを作成し目標をもって取り組めるようにしている。 全職員が閲覧できるように事務所に就業規則を置いている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の要望や勤務年数などに応じ施設内研修を行うとともに施設外研修の参加も進めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区及び堺市全体のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報意見交換や研修などをおこなっている。連絡会を通じた集まりにも参加している。他の GH の運営推進会議に参加したり見学に行く事で情報収集に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接本人と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。 入所後は家族の不安や要望についての結果を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学をしていただいた際に相談に応じている。担当のケアマネからも情報収集している。また、入居が決まった場合には、本人とその家族がその時に求めておられるサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、調理・洗濯・掃除といった家事を一緒に行い、利用者同士や職員と助け合う関係を築いている。また、利用者の得意分野やできることを活かし、畑作業や裁縫、クラブ活動を通じてそれぞれに役割を持っていただけるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には状態報告を行ったり、わが家のブログに写真を掲載したり、毎月のわが家通信で近況報告を行っている。 また、外出行事や運営推進会議への参加を呼び掛けている。 家族会やセレモニー、夏祭りなど大きなイベントや外出行事などにも参加してもらえるように声を掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームとして玄関は施錠せず日中はいつでも入れるようにしている。気軽に入れるようにインターホンは鳴らさず出入りしてもらっている。馴染みの美容院やかかりつけ医などにも家族付き添いで行ってもらっている。	職員は、利用者の知人がホームに来るのを支援したり、利用者が馴染みの美容院やスーパーに行くのを支援したりしています。また、娘の結婚式に出席したり、家族と協力して遠隔地の出身地へ墓参りに出かける等の支援をして、利用者の思いを実現し、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、テーブル席やソファの座席など配慮している。また少人数の外出行事や日々の散歩などの時も相性のいい利用者同士になるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をした場合でも面会に行き状態把握に努めている。今後の対応を連携ドクター、家族と相談できるようにしている。入院後に著しく ADL 低下しても家族の希望に応じてわが家で受け入れる体制を整えている。 退所後もセレモニーや夏祭りなどの行事に参加呼び掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の希望を常に聞くように心がけている。面会時に家族に相談しできる限り本人本位に沿えるように検討している。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを毎日のケア記録に書き込んでいます。ただ、職員間で情報を共有化するための記録の整理や把握には工夫の余地があります。	全職員が共有できる情報にするために、各職員が知っている利用者の現在の思いや意向を把握し、記録することが期待されます。例えば、利用者一人ひとりの思いや意向を記入するノートを作成してはいかがでしょうか。また、センター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用し、研修を兼ねて家族と職員で作成に取り組まれてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネからの情報提供をもとに利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握をすると共に、使い慣れた家具や飾りを持ち込んでもらい、家庭環境に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より、調理や掃除等の家事作業や散歩、畑作業、近くのスーパーへ買い物等を職員と共に行い、身体状態や能力の把握に努めている。また職員間で共有できるように一覧にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、利用者やご家族の意見や要望を聴きケアプランに反映するよう努めている。また、介護計画チェックを毎日行い、毎月モニタリングを実施している。ケアプラン見直し時には担当職員と話し合ったり、問題点をGH会議の議題とし話し合っている。	介護計画は定期的には6～12か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は個別介護計画の支援内容を、パソコンで毎日モニタリングしています。各利用者の担当職員は毎月モニタリングを実施し、計画作成担当者に報告しています。計画作成担当者は3か月毎にまとめのモニタリングをして評価し、ケース会議、サービス担当者会議を経て、介護計画の見直しにつなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を日中、夜間帯と細かく記録している。気になることは朝夕の申し送りやサブリーダー会議、正職会議、GH 会議で職員間共有するようにしている。入院時や退所時は施設支援経過に記録している。PC の掲示板で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なケアにならないようにその時々ニーズに対応している。 アクティビティアウティングを取り入れ家族の希望する場所への個別外出にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園には毎日散歩に出かけ桜や花を見る機会を作り、季節感を味わえるようにしている。またボランティアさんによる演奏会や体操、クラブ活動なども充実させ 1 日の生活に楽しみがあるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力機関のクリニックが月に2回の訪問診療を行っており、24時間連絡体制が可能である。また、利用者やご家族の希望に応じて訪問歯科も受けれるように支援している。 入居前にかかりつけ医の選択、外部での継続する場合はホームでの様子を伝えている。</p>	<p>家族の同意を得て、大半の利用者が協力医療機関の医師の在宅訪問診療を利用し、月2回の往診を受けています。医療連携している看護師が週1回の訪問看護で健康管理を行っています。入居前からのかかりつけ医に受診する利用者には、家族の通院介助が基本ですが、緊急時など必要時には職員が付添いをしています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約を行っており、週1回に看護師の訪問があり健康管理を受けている。また利用者の状態を報告・相談したり、緊急時には連絡し指示を仰いでいる。状態に応じて往診や訪問看護を受けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、介護サマリーを作成し医療機関への情報提供に努めると共に管理者やケアマネが面会し、利用者、家族、医療機関との連携し、情報交換や相談に努めている。定期的に足を運ぶことで病状の把握を行い退院後の対応を連携看護師や職員間で検討し受け入れ体制を十分に備えられるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取り介護について説明している。状態に応じてその都度、相談できるように努めている。 看取りの研修を定期的に行い、職員間の意識も高めている。また家族様にも参加する機会を作っている。</p>	<p>ホームでは看取りの実績はありませんが、看取り実施の方針を持ち、指針も作って、契約時に利用者の意向を確認しています。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルを作成している。 年一回 AED、胸骨圧迫の救命救急研修を実施している。 事故防止マニュアルを作成したり、発生時には速やかに対応できるような連絡体制をとっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員、利用者参加の消防訓練を年に2回実施している。また、地域の防災訓練にも参加し、地域の協力体制を築けるよう努めている。災害時の情報発信ダイヤルや非常災害マニュアルを作成している。 災害用として2日分程度の水と非常食を備蓄している。</p>	<p>年2回の火災・災害避難訓練を消防署の指導・承認のもとに実施しています。緊急時には地域の協力を得られるよう役割分担について話し合っています。災害時の飲料水と食料品の備蓄をしています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇やプライバシー、倫理研修を行ったり、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい言葉掛けや対応を日々の業務の中でも常に意識するようこころ掛けしている。 対応について会議でも話し合っている。 トイレにカーテンやスクロールカーテンを取り付け、プライバシー配慮に努めている。</p>	<p>職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、プライバシーや接遇、倫理の研修を受け、意識の向上に努めています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ルーティン業務を優先させず、日常より自己選択・自己決定ができるように努めている。セレクト食やバイキングを実施したり、行事や外出でも自己決定を促せるように選択制にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティン業務を優先させず自己決定できるように努めている。居室で過される方に関しては無理強いせず、食事をずらしたり本人のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を受けたり、可能な限り衣類の選択を支援している。起床時や入浴後に化粧水や乳液を塗ってもらうなど支援している。眉をかくなど化粧をしてもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個人の能力に応じて野菜を切ったり盛り付けたり、一緒に準備し後片付けも一緒に行っている。月に一回は料理レクを実践し、買い出しから一緒に行い、季節感のある食事内容を取り入れている。セレクト食では2つのメニューから食べたいものを選んでもらったり、バイキングでは好きな物を食べてもらっている。嗜好品を考慮し、漬物やふりかけ、ラーメンなど預かり、適宜提供している。</p>	<p>日常の食事は、栄養バランス、カロリー計算等がなされたメニューによる食材を業者から配達してもらい、ユニット毎にキッチンで調理しています。利用者はできるところで調理に参加し、一緒に準備、片付けなど行っています。職員は同じテーブルに着き、和やかな食事風景です。月に1回は料理レクとして、利用者と一緒にメニューを考え、食材を買い出しに出かけ、調理を楽しんでいます。月1回のセレクト食では利用者の好きなメニューを2種類から選ぶことができます。外食に出かけることもあります。これは行事の一環となっています。おやつレク、バイキング等趣向を凝らしています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人の食事量、水分量を記録し必要に応じてやわらか食やムーズ食、キザミ食などの食事形態で提供したり、食材をカットし食べやすいように工夫している。摂取の少ない方に関して高カロリーゼリーも勧めている。必要に応じて医師と連携し高カロリージュースを処方してもらうなど対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて毎食後の口腔ケアを実施している。夜間帯のみ義歯洗浄を毎日行っている。 希望者には訪問歯科による口腔ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を優先し機能保持に努めている。夜間でも可能な限りトイレに誘導している。運動や水分を確保し、自然な排泄を促せるようにしている。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者のしぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより、自立支援をし、利用者全員がトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録に個人の詳細を記録し、下剤の調整を行っている。朝食時に牛乳を提供したり、水分の提供も促している。希望する方には明治ヨーグルトの宅配をしてもらっている。買い物で購入するか家人様に持参してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を基本としているが、入浴拒否のあるご利用者には、適切な声掛け等により入浴してもらったり、振り替え入浴で気分の良い時に入浴してもらっている。また変わり湯を毎月実施し季節や雰囲気味わってもらえるように支援している。	利用者は平均して週3回の入浴を楽しんでいます。2年前より、毎月の行事レクリエーションとして、ボランティアの協力でひのきや松、びわ、バラ、ゆず、しょうぶなどの変わり湯の材料を調達し、利用者は季節を感じる事ができる「変わり湯」を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	フロア、各居室に室温湿度計を 置いて空調や加湿器により温度 湿度調整を行っている。また、 体調に合わせて居室で昼寝を してもらっている。使い慣れた 布団を使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	服薬の説明をファイリングし スタッフ間で共有している。また 薬は一包化しミスのないよう に二重チェックとしている。ま た居宅療養管理指導の下、薬 局にもいつでも相談できる体 制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	その方に合った役割をできる だけ持ってもらい、毎日の散歩 や体操に参加促している。ま た行事レクカレンダーを作成し 、楽しみのある生活を送れる ように努めている。月に1回は 買い物などの外出を出来るよう にしている。またアクティビ ティアウティングを取り入れて 馴染みの場所や嗜好品を食べ に行くなどの楽しめる環境を 支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩は毎日の日課としている。家族といつでも外出・外泊できるように急な場合でも対応している。また、年間の行事を企画し、花見・紅葉・遠足・初詣といった季節に応じた外出の他に散歩や少人数や個別での外出を取り入れ、落ち着いた環境での支援を行っている。行事には家族やボランティアにも参加してもらっている。</p> <p>アクティビティアウティングを取り入れて本人・家族の希望に沿うようにしている。</p>	<p>日常的に外出支援に力を入れていません。気候の良い時にはほぼ毎日、利用者の体調も見ながら、近隣の散歩、買い物等に出かけています。午前の部、午後の部と少人数でのんびり、手引き歩行、車いす走行など、身体状況に応じて散歩コースを選んでいきます。家族との外出・外泊はいつでもできるよう対応しています。年間の行事計画を立て、花見・紅葉・遠足・初詣・いちご狩り・ブドウ狩りなど季節に応じて遠出を楽しみ、家族に参加を呼び掛けるとともに、外出ボランティアの協力を得ています。「アクティビティアウティング」と名付けて本人・家族の希望により、娘の結婚式やゴルフの打ちっぱなしに付き添うといった、個別的な特別な外出支援も行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1万円までを預かり金とし気候のいい時期には月に1回程度、買い物の支援をしている。個別支援と少人数での買い物レクを取り入れている。可能な方は財布を手渡し会計もしてもらっている。オフィスコンビニでいつでもジュースやお菓子を買える環境である。また駄菓子レクでは好きなお菓子を好きなだけ買ってもらう。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者や家族の意向があれば電話の対応をして頂いている。 希望があれば居室に携帯電話を設置したり預かるのは可能である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾りつけを実施している。テーブルやカウンターの上では最小限の物のみを置いている。時々花も生けている。 行事の写真や予定を貼りだす事で楽しみのある空間づくりを実践している。</p>	<p>リビングは1~2階が吹き抜け構造になっていて、梁や柱の木目のぬくもりが高齢者に優しさを与えています。壁に貼られたポスターがレトロ風の雰囲気醸しています。南面には広いデッキがあり、季節感のある周辺の山や緑が一望でき、やすらぎを感じます。明るくゆったりとしたリビングには季節の花の手芸作品や書道作品、笑顔のある楽しい行事写真が飾られ、寛げる居場所のソファもあって、居心地の良い雰囲気になっています。建物周辺には季節の花を咲かせる樹木が植えられ、野菜の収穫ができる菜園もあって、利用者が外気浴・日光浴を楽しめる環境になっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル、ソファの配置に工夫し、相性の良い人との席にも配慮している。 個々のペースに合わせ、心地良い場所(バルコニーや和室なども)で過ごして頂ける様努めている。また思いを伝えられない人に対しては、表情等で把握し、居室にて、寛いで頂けるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みやテレビを置くなど家族や本人の希望に沿うように実施している。また転倒リスクのある方に関しては動線を確保し、環境整備に努めている。	各居室の入り口にそれぞれ趣の違う針金と和紙で作られた手作りのシェードが飾られ、ライトが点いていて、居室の目印になっています。窓が大きく、周辺の季節感のある風景が一望でき、やすらげる空間となっています。居室には利用者が持ち込んだ整理ダンス、机、椅子、人形、家族写真、手芸作品、毎日書く行事予定表、カレンダーがあり、外出着が掛けられています。家族の気持ちも伝わる、居心地の良い個性的な居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段を自由に使用できるようにしている。廊下などの共有スペースには手すりが設置してあり伝って歩けるようにしてある。		